

Ⅲ 主な取組の状況（P13～54）

プランの目指す4つの方向ごとに県や関係団体等の取組並びに県内における取組など87事例を記述しました。



1 食を通じて健康な体をつくるために（P13～23）

（1）県や関係団体等の取組（13事例）

ア バランスのとれた食生活の推進

- ・保育園で寸劇とゲームにより食育推進〔写真1〕
- ・季節は秋！食べるぞ朝ごはんコンテスト〔写真2〕
- ・家族一緒に『早ね・早おき・朝ごはん』を実践しよう
- ・学校給食教室の開催

イ 生活習慣病等の予防対策

- ・全世代にわたる生活習慣病対策
- ・「食育推進協力店」の登録、健康・食育いきいき推進事業
- ・「8020あいちプロジェクト事業」の開催〔写真3〕

ウ 食品表示の適正化や食の安全に関する普及啓発

- ・食品表示の適正化についての取組
- ・アサリの貝毒検査の実施と結果の公表
- ・「食の安全・安心県民交流会」〔写真4〕の開催 など

（2）県内における取組事例（10事例）

- ・食と健康をテーマにしたイベント
- ・食育料理教室、食育勉強会の開催〔写真5〕
- ・子どもの生活習慣病対策、健康メニューの試食会〔写真6〕 など



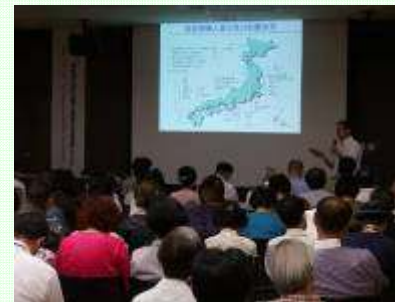
1 食事バランスを食育劇で教える
(愛知県食生活改善推進員連絡協議会)



2 朝ごはんコンテストで調理する生徒
(愛知県教育委員会)



3 歯科相談・食育アンケート調査
(社)愛知県歯科医師会



4 食の安全・安心県民交流大会
(愛知県)



5 野菜の栄養やおいしい食べ方を学ぶ
(東郷町)



6 手作り健康メニューの試食
(美浜町)



2 食を通じて豊かな心を育むために（P24～36）

（1）県や関係団体等の取組（14事例）

ア 食を通じたコミュニケーションの確保

- ・「毎月19日はおうちでごはんの日」キャンペーン〔写真7〕
- ・ホテルで親子食育セミナーの開催

イ 体験を通じた食の理解促進

- ・幼稚園、小学校等での農業体験や調理実習
- ・学校給食調理コンクールの開催
- ・生産者との交流を目的とした体験活動の企画〔写真8〕
- ・「農楽の先生」派遣事業の実施

ウ 食文化の理解と継承

- ・「朝食をしっかりと食べよう！」と「食文化の伝承」〔写真9〕
- ・「愛知を食べる学校給食の日」の実施〔写真10〕
- ・郷土料理等の伝承活動にかかる研究発表会の開催 など

（2）県内における取組事例（16事例）

- ・保育園や小学校での取組、学校と地域が連携した体験活動の実施
- ・地元食材を利用した伝承料理教室の開催
- ・市の食育モデル地区での酪農体験〔写真11〕
- ・大学から地域への食育の啓発の取組、生産者団体や企業による取組〔写真12〕 など



7 「おうちでごはんの日」
キャンペーン啓発ポスター
(愛知県)



8 親子で稲刈り体験
(名古屋勤労市民生活協同組合)



9 郷土食を取り入れた給食
(愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会)



10 生産者を学校に招きお話を聞く
(愛知県教育委員会)



11 親子酪農体験で牛とのふれあい
(豊田市)



12 学校給食で地元産きゅうり利用
(西三河冬春きゅうり部会)



3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために (P37~46)

(1) 県や関係団体等の取組 (10事例)

ア 環境に配慮した食生活等の推進

- ・「地域から広げるごみ減量推進事業」の実施〔写真13〕
- ・「愛知県菜の花エコプロジェクト交流会」の開催

イ 地産地消の推進

- ・女子大との交流によって地元産魚介類の情報発信〔写真14〕、愛知の水産物おいしさPR事業
- ・父の日に乳を贈ろうキャンペーンの実施〔写真15〕
- ・社員食堂で地産地消を推進、「ふるさと農林水産フェア・秋」の開催
- ・「県産農産物学校給食導入促進交流会」の開催

ウ 農林水産業における環境への配慮

- ・「環境と安全に配慮した農業推進フォーラム」の開催〔写真16〕
- ・農と水の故郷フェア'08の開催

(2) 県内における取組事例 (8事例)

- ・学校で地産地消の授業実施、学校給食に地場産物を活用
- ・地元産を使用した米粉パン、アイデア料理コンテスト、うどん作り講習会の開催〔写真17〕
- ・地産地消のPRイベントの開催
- ・株式会社げんきの郷が「平成20年度地産地消優良活動表彰事業」で農林水産大臣賞受賞〔写真18〕 など



13 耕作放棄地に生ごみ堆肥を投入して畑地化 (愛知県)



14 女子大生と地元魚介類で交流 (愛知県漁業協同組合連合会)



15 父の日に牛乳(ちち)を贈ろうポスター (愛知県酪農農業協同組合)



16 環境と安全に配慮した農業推進フォーラム (愛知県)



17 米粉利用のアイデア料理コンテスト (吉良町)



18 地産地消活動で農林水産大臣賞受賞 (株式会社げんきの郷)



4 食育を広めるために (P47~54)

(1) 県や関係団体等の取組 (7事例)

ア 食育にかかる人材の育成

- ・「輝きネット・あいちの技人」の育成
- ・「あいち食育いきいき講座」等による食育推進ボランティアの育成〔写真19〕

イ 食育ネットワークの構築

- ・「あいちの食育いきいきシンポジウム」の開催〔写真20〕
- ・JAグループ愛知における食農教育の取り組み

ウ 食育の普及・啓発等

- ・全国初!マンガで食育を推進〔写真21〕
- ・あいち県民健康祭の開催

(2) 県内における取組事例 (8事例)

- ・食育教室、食育推進計画の取組推進〔写真22〕
- ・食をテーマとしたイベント、食育料理教室
- ・大学生による食育指導〔写真23〕、紙芝居や劇による普及啓発
- ・あいち食育サポート企業団が「地域に根ざした食育コンクール2008」で農林水産大臣賞受賞〔写真24〕 など



19 あいち食育いきいき講座 (愛知県)



20 シンポジウムにおける木村まさ子さんの講演 (愛知県)



21 全国初の食育マンガ (愛知県)



22 地元FM局で食育推進計画PR (東海市)



23 大学生が食育指導 (高浜市)



24 食育活動で農林水産大臣賞受賞 (あいち食育サポート企業団)

IV 数値目標の状況（本文P55～58）

プランに掲げた13項目の数値目標（H22年度）のうち、平成20年度は11項目について状況を把握しました。

	基準年	H19年度	H20年度	目標値	状 況
1 食を通じて健康な体をつくるための目標					
○ 朝食の欠食割合					
小学生	2.9% (H18)	—	2.0%	0%	基準年に比べて、小学生は0.9ポイント、中学生は1.6ポイントそれぞれ減少していますが目標数値とはまだ乖離があり、また、高校生は0.7ポイント増加していることから、学校と家庭の連携をとり朝食の重要性について一層普及啓発します。
中学生	6.1% (H18)	—	4.5%	3%以下	
高校生	8.6% (H18)	—	9.3%	5%以下	
○ 肥満者の割合					
小学校2年生	5.5% (H17)	5.8%	5.7%	5%以下	基準年に比べて、中学2年生では0.6ポイント減少していますが、小学校2年生は0.2ポイント、小学校5年生は1.0ポイントそれぞれ増加し目標数値と乖離しているため、食生活と運動の両面で肥満防止の取組を強化していく必要があります。
小学校5年生	9.5% (H17)	7.7%	10.5%	8.5%以下	
中学校2年生	9.3% (H17)	8.9%	8.7%	8.3%以下	
○ 健康な歯を持つ人の割合					
3歳ですべての歯（乳歯）が健康な人	78.7% (H16)	81.5% (H18)	81.7% (H19)	90%以上	基準年に比べて、3歳では3.0ポイント、小学校3年生では3.2ポイントそれぞれ増加していますが目標数値とはまだ乖離があり、引き続きむし歯・歯肉炎予防の指導や正しい歯のみがき方を啓発していきます。
小学校3年生ですべての歯（永久歯）が健康な人	80.6% (H17)	83.6% (H18)	83.8% (H19)	90%以上	
2 食を通じて豊かな心を育むための目標					
○ 学校給食における地場産物を使用する割合（食品数の割合）	27.7% (H17)	27.9%	34.7%	35%以上	基準年と比べて7.3ポイント増加して、34.7パーセントとなり、目標数値に近づきました。「愛知を食べる学校給食の日」の実施や食の安全・安心を求める動きに加え、学校給食法の改正により、地場産物を活用した食育の推進が盛り込まれ、学校給食に地場産物を多く取り入れようという気運は高まっています。
○ 農林漁業体験学習の取組を実施している市町村の割合	38.1% (H18)	45.9%	57.4%	80%以上	市町村における食育推進計画の作成が進んだこともあり、基準年と比べて19.3ポイント増加し、57.4パーセントとなりました。引き続き食育推進計画の作成の推進とあわせて農林漁業体験学習の実施を促します。
3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための目標					
○ 無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合	35.5% (H18)	—	39.6%	50%以上	基準年と比べて、4.1ポイント増加して、39.6パーセントとなりましたが、目標数値とは乖離があり、今後一層普及啓発に努めてまいります。

	基準年	H19年度	H20年度	目標値	状 況
○ 県内産の食材を積極的に扱う 「いいともあいち推進店」の登録数	336店 (H17)	591店	649店 (H21.2現在)	500店以上	「いいともあいち推進店」の登録数及び「エコファーマー」の認定者数は、いずれも平成22年度の目標に達しました。制度の普及が進んだこと、安全・安心な食材を求める消費者の要望に事業者や生産者が応えようとしたことの結果であるとみられます。引き続き「いいともあいち推進店」の登録や「エコファーマー」の認定を進めていきます。
○ 環境に配慮して生産活動を行う農業者 「エコファーマー」の認定者数	2,200人 (H16)	3,725人	3,762人 (H20.7現在)	3,500人以上	
4 食育を広めるための目標					
○ 食育に関心を持っている県民の割合	64.8% (H17)	—	92.0%	90%以上	基準年と比べて、27.2ポイント増加し92.0パーセント（「関心がある」54.5%と「どちらかといえば関心がある」37.5%の合計）となり目標に達しました。
○ 「愛知県食育推進ボランティア」の登録数	388人 (H17)	437人	525人	500人以上	基準年に比べて137人増加し、525人となり、目標に達しました。引き続き、食育の重要性を普及啓発するとともに、県民の身近なところで食育の推進をしていただくボランティアの登録を進めます。
○ 食育推進計画を作成・実施している市町村の割合	0% (H18)	16.4%	49.2%	80%以上	作成・実施している市町村は、61市町村のうち30市町であり、その割合は49.2パーセントとなりました。なお、21年度以降の作成が見込まれる市町村数は25あり、これを合わせると県内市町村における計画の作成見込みは90.2パーセントとなります。引き続き市町村への働きかけを行い、市町村食育推進計画の作成を促します。

V 次年度に向けて（P59～63）

食や食育に関する最近の主な動きとして、①食に対する不安の高まり、②食料の海外依存に対する見直しの動き、③学校給食法の改正、④糖尿病やメタボリックシンドロームの増加、⑤地産地消の高まりについて記述するとともに、食育推進の現状と最近の動きを踏まえ、平成21年度の主な取組を記述しました。

参考資料 県や関係団体等の平成20年度取組一覧（P64～86）

プランで位置づけた県や関係団体等の取組を一覧表で整理しました。

レポートの活用

- 各県民生活プラザで県民の皆様にご覧いただけるようにします。また、県ホームページの「食育ネットあいち」に掲載します。（<http://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/index.html>）
- 県や関係団体、市町村等の食育を推進する関係者に印刷物を配布し、取組の参考に資するとともに食育についての気運の盛り上げを図ります。

